

2019年度(平成31年度) 金沢大学大学院人間社会環境研究科(第1期募集)
入学試験問題

試験科目	経営学(会計学を含む)		
問題区分	一般・留学生特別選抜共通	解答用紙枚数	2枚

次の設問から 2問を選択して解答しなさい。なお、1つの設問につき1枚の解答用紙を使用すること。解答用紙には選択した設問番号を明記すること。

設問1 図1は、生産管理システムのパラダイムの変遷を示す。すなわち、標準化、統合化、グローバル化などの時代の要請(キーワード)に従い移り変わったものです。その変遷を理解した上で、これから起こりうるパラダイムについて自分の意見を述べなさい。

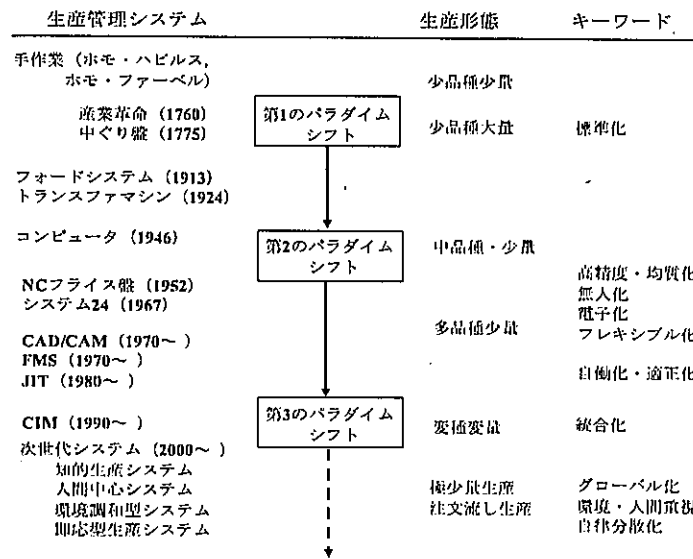


図1 生産管理システムの移り変わり

設問2 在庫管理において安全在庫 (safety stock) の必要性について述べた後、その在庫量が必要以上に①多い場合と②少ない場合に生じる、それぞれの問題について述べなさい。

設問3 減価償却と減損会計それぞれの具体的な会計処理法について説明した上で、両者の相違点について述べなさい。

設問4 企業会計の機能を、「責任会計メカニズム」、「利益分配メカニズム」および「資源配分メカニズム」という3つの視点から述べなさい。

2019年度（平成31年度） 金沢大学大学院人間社会環境研究科（第1期募集）

入学試験問題

試験科目	経済理論		
問題区分	一般・社会人・外国人共通	解答用紙枚数	2枚

次の設問から2問を選択して解答しなさい。なお、1つの設問につき1枚の解答用紙を使用すること。解答用紙には選択した設問番号を明記すること。

設問1、資本制経済において、蓄積需要は、私的資本家による私的分散的な意思決定によって行われるため、常に均衡蓄積軌道から上方あるいは下方に向かって累積的な不均衡が進行する。このような不均衡累積過程を逆転させることができなければ、資本制経済の存続は不可能になる。このような、恐慌・景気循環の不可避性に関連する以下の問いにすべて解答せよ。

[1] 上方への不均衡累積過程および下方への不均衡累積過程が進行すると、なぜ資本制経済は存続できなくなるのか、それぞれについて理由を簡潔に説明せよ。

[2] 以下に挙げた、上方への不均衡累積過程を逆転させる4つの要因、および、下方への不均衡累積過程を逆転させる3つの要因について、具体的にどのような事態が生じて逆転が生じるのか、説明しなさい。

(1) 上方への不均衡累積過程を逆転させる要因

- ① 消費財部門の利潤率低下
- ② 剰余生産財の制約
- ③ 労働力の制約
- ④ 信用の制約

(2) 下方への不均衡累積過程を逆転させる要因

- ① 消費財部門の活況
- ② 新技術導入の強制
- ③ 資本家の個人消費

設問2、以下の設問に答えなさい。

- [1] 平均費用逡減企業における利潤最大化条件を求めなさい。
- [2] 費用逡減企業が存在するとき、市場の失敗が発生することを示しなさい。
- [3] 費用逡減産業における価格付けとして平均費用価格づけ原理が用いられている。
この平均費用価格付け原理の特徴について説明しなさい。

[4] 平均費用価格形成原理がもたらす弊害について論じなさい。

[5] 以下の専門用語についてそれぞれ100字以内で説明しなさい

- (1) ヤードスティック規制
- (2) 公正報酬率規制
- (3) コンテストダブルマーケット
- (4) X 非効率性

[6] オークションについて以下の問いに答えなさい。

- (1) オークションによる取引は効率的な結果をもたらすことが知られている。

このことを簡単なモデルを用いて証明しなさい。

- (2) ファーストプライス・オークションとセカンドプライス・オークションとについて両者の特徴と相違について説明しなさい。

設問3、次のようなソロー・モデルを考える。

一次同次生産関数を $Y = F(K, L)$ と定義する。

ここで、 Y は生産量、 K は資本ストック量、 L は労働供給量を表す。

ただし生産関数は、 $\frac{\partial Y}{\partial K} > 0$ 、 $\frac{\partial Y}{\partial L} > 0$ 、 $\frac{\partial^2 Y}{\partial K^2} < 0$ 、 $\frac{\partial^2 Y}{\partial L^2} < 0$ を満たす。

t 期と $t+1$ 期の間の資本の推移式は、 $K_{t+1} = K_t - \delta K_t + I_t$ を満たす。

t 期と $t+1$ 期の間の労働供給量の推移式は、 $L_{t+1} - L_t = nL_t$ を満たす。

ここで、 $0 \leq \delta \leq 1$ は資本減耗率、 I は粗投資量、 n は人口成長率を表す。

家計は所得の一定割合を貯蓄に回し ($S = sY$)、残りを消費する ($C = (1-s)Y$)

と仮定する。ここで、 S は貯蓄量、 $0 < s < 1$ は貯蓄率、 C は消費量を表す。

粗投資量と貯蓄量は常に等しいものとする。

このとき以下の問いに答えなさい。

[1] $\frac{\partial Y}{\partial K} > 0$ 、 $\frac{\partial Y}{\partial L} > 0$ 、 $\frac{\partial^2 Y}{\partial K^2} < 0$ 、 $\frac{\partial^2 Y}{\partial L^2} < 0$ を満たす一次同次関数とはどのような関数だろうか。日本語で説明しなさい。

[2] $k \equiv \frac{K}{L}$ 、 $y \equiv \frac{Y}{L}$ と定義したとき、 $y = f(k)$ と表記できることを示しなさい。

[3] t 期と $t+1$ 期の間の k の推移式を導出しなさい。(導出過程も省略せずに記述せよ)

これ以降の設問では、生産関数を $F(K, L) = AK^\alpha L^{1-\alpha}$ のように特定化する。

ここで、 A は技術水準、 $0 < \alpha < 1$ は資本分配比率を表す。

[4] $k_{t+1} = k_t$ を満たすような k^* および y^* を導出しなさい。また、 $c \equiv \frac{C}{L}$ と定義し

たとき、 $k_{t+1} = k_t$ を満たすような c^* を導出しなさい。(導出過程も省略せずに記述せよ)

[5] α は何故資本分配比率と呼ばれているのか説明しなさい。

[6] c^* を最大にするような貯蓄率 s を導出しなさい。またこのときの k^* 、 y^* および c^* を導出しなさい。(導出過程も省略せずに記述せよ)

[7] $k_{t+1} = k_t$ を満たすとき、 Y の成長率を計算しなさい。(導出過程も省略せずに記述せよ)